

## 「和光市の歴史(かこ)をふりかえる」の意見に対する決定事項

委員名	意見の概要	和光市史編さん委員会決定事項
1 寄口昌宏 委員	意見なし	
2 中蔦裕猛 委員	意見なし	
3 宮瀧交二委員長は、佐々木寛司監修者とともに、各委員の意見を取りまとめながら意見をいただきます		
4 鈴木敏弘 委員	<p>別編 遺跡の街—和光市 については考古学を専攻するものとして、当初から考古編の希望を主張してきた経緯もあり、概説編か資料編か中途半端な印象と、弥生後期から古墳時代の図と写真の配置と説明を再検討すべきと考える。編集の途中なのか、スペースの関係か、専門的な知識が不足なのか、いずれにしても、このままの印刷では手抜きに見える。豊富な資料の蓄積のある遺跡の街の、考古資料が十分活かされているとは言えない。</p>	<p>令和4年1月18日に開催した第4回和光市史平成版編集委員会において、遺跡の内容・分量が多いので、遺跡に関する内容を「別編」にすることについて協議され、再校ゲラ段階で調整することとなりました。今回提示したものは、1月28日に通知いたしましたとおり市史編さん委員会委員長と編集委員長を含めた編集会議での協議を踏まえての結論を、和光市史編さん委員会の決定事項とした上で、具体化したものとなります。</p> <p>しかし、前回の「歴史をふりかえる」の本文から文章を抜き出したことにより、かえって内容の重複又は言葉不足等が生じる中途半端な構成となっておりますことをご指摘のとおりです。</p> <p>当該部分については、本文中に宮瀧委員長に各時代の人々の生活概況に関してご執筆いただいた文章を挿入し、それに合わせて委員ご指摘の趣旨を踏まえ、中世までを再編集することといたします。</p> <p>なお、再編成の方向としては、各時代の調査成果については「歴史をふりかえる」本文に戻して全体を調整し、別編は区画整理等により都市化が進む中で遺跡の発掘を行った結果、多数の遺跡が明らかになった成果などの概要をまとめる方向といたします。</p> <p>なお、ページ数等については他の施策等とのバランスを踏まえて対応いたします。ただし、限られたページ数の中での対応となりますことをご理解ください。</p>
5 小柳一彦 委員	図や写真が大きさも含めて見やすくなり良かったです。	
6 田中明 委員		

「和光市の歴史(かこ)をふりかえる」の意見に対する決定事項

委員名	意見の概要	和光市史編さん委員会決定事項
7 田中俊 委員	別紙6 のとおり	
8 伊藤芳夫 委員	意見なし	
09川曲幸 生委員		
10 佐々木 好評委 員	意見なし	
11 牧田忍 委員	別紙7、別紙8 のとおり	
12 佐々木寛司監修者は、宮瀧交二委員長とともに、各委員の意見を取りまとめながら意見をいただきます		
事務局	別紙9-1・9-2 初校ゲラに青字修正を加えたとおり	

## 「和光市の歴史(かこ)をふりかえる」の意見に対する決定事項

該当ページ	意見の概要	和光市史編さん委員会決定事項
17	上段1～20行目をP16の3段目に移行する。3段目の写真をP17に移行し、P17全体を編集換えをする。	全体を通して、上2段が文章で、下1段が写真等とするスタイルで編集しますので、原稿のままとします。
21	上段最終行「明治40年(1907)度」の <del>度</del> を削除する。	ご意見のとおり修正します。
26	陸軍予科士官学校の写真(上)拝遙の写真は分かりにくいいため削除し、P29の「陸軍予科士官学校本部と教練の様子」を移行する。	ご意見のとおり修正します。
42	上段右から9行目 小見出し「高度成長下」を「高度経済成長下」とする。初校(P63)の校正、委員会決定事項欄に「修正します」と記されているが修正されていない。	ご意見のとおり修正します。
43	町長の顔写真 順序を歴代順の「富澤英一、星野豊麻、富澤敬蔵」とする。	ご意見のとおり修正します。
46	下段右から9行目 「復旧」を「普及」とする。初校(P67)の校正、委員会決定事項欄に「修正します」と記されているが修正されていない。	ご意見のとおり修正します。
60	上段右から11、17行目の「マンション」を削除する。 マンション と称する集合住宅は、昭和50年代後半から目立って増えてきたといえる。	ご意見のとおり修正します。
63	上段右から5行目 「三万以上」を「三万人以上」とする。	ご意見のとおり修正します。
68	「市制施行記念の写真」を削除し、P86の「市制施行記念の写真」を移行する。	ご意見のとおり修正します。
78	「市道舗装状況」の表をP79に移行する。	ご意見のとおり修正します。

該当ページ	意見の概要	和光市史編さん委員会決定事項
82	下段右から4～5行目 通常の文字間隔に修正する。	通常の文字間隔だと「11月」が分断されるので、「日比谷間が開通し、」と修正します。
97	上段左から6行目 「昭和49(1974)年9月」を「昭和49年(1974)9月」とする。	ご意見のとおり修正します。
98	上段左から3～4行目 通常の文字間隔に修正する。	数字が行をまたぐことになるので、原稿のままとします。
105	上段右から2行目 「作成していた」を「作成した」とする。 初校(P127)の校正、委員会決定事項欄に「作成した」と記されているが修正されていない。	ご意見のとおり修正します。

## 「和光市の歴史(かこ)をふりかえる」の意見に対する決定事項

該当ページ	意見の概要	和光市史編さん委員会決定事項
6下段 4行目	トピックスに縄文海進がある。前期頃では…	ご意見のとおり修正します。
6下段 8行目	海が来ていた→海であったと考えられる。	ご意見のとおり修正します。
27上段 10行目	要因→契機	「合併がすんなりと成立したのは、」に修正します。
28上段 後ろから 3行目	降伏し→終戦の日を迎え、	ご意見のとおり修正します。
37下段 末	かき集め→かきをトル	ご意見のとおり修正します。
39下段 後ろから 2行目	見返り→対応…受け取った。	後ろから7行目(一方)から1行目(受け取っていた。)までを、「一方、大和町は本田技研工業(株)からの多額の法人町民税や町民の雇用という恩恵を受けたが、昭和35年の第三小学校の建設時には、同社に対して2000万円に及ぶ寄附金の提供を求め、受けている。」に修正します。
40下段 末	地位の低下？ 本田技研内の話か大和町財政の地位か？その両方なのか？	「大和工場の生産量は減少し、」に修正します。
43上段 8行目	富澤の辞職後、	ご意見のとおり修正します。
46上段 後ろから 3行目	町民による激しい抵抗	「朝霞町の農民による激しい建設反対運動で難航し、」を「朝霞町民による激しい抵抗で、」に修正します。
58上段 6行目	風俗トル	ご意見のとおり修正します。

該当 ページ	意見の概要	和光市史編さん委員会決定事項
66下段 12行目	法人町民税には賜物となり…	「こうした潤沢な財政力は、法人町民税の賜物であり、…」を「こうした潤沢な財政力は、法人町民税の増大による自主財源の充実によるものであり、その多くを…」に修正します。
83下段 6行目	東上線？ 全体的に通観して東武東上線と東上線の記述が散見される、東上鉄道時代もあるが、東武東上線時代でも東上線の記述が見られる。当委員としては文脈や事実内容には瑕疵はないと考えている。	「東武東上線」に統一します。
91上段 3行目	職員定数の抑制	ご意見のとおり修正します。

## 「別編 遺跡の街－和光市」の意見に対する決定事項

該当ページ	意見の概要	和光市史編さん委員会決定事項
108上段 後ろから 3行目	黒曜石を石材としている。	ご指摘を踏まえ「黒曜石が石材として用いられている。」と修正します。
111上段 2行目	未だ→トル	原文のままとします。
111上段 3行目	発見→検出or確認	原文のままとします。
111上段 14行目	貝殻条痕文系の土器群は、炉穴と呼ばれる屋外炉から多数検出されている。	ご指摘を踏まえ、「貝殻条痕文系の土器群と炉穴と呼ばれる屋外炉が多数検出されている。」と修正します。
111上段 17行目	重複した炉穴群が多数検出されている。	ご指摘のとおり修正します。
112上段 2行目	同一の遺跡	ご指摘のとおり修正します。
112上段 14行目	…越之上遺跡で確認されており…	ご指摘のとおり修正します。
112下段 3行目	住居と貯蔵穴の関係が…→当時の生活様式が…	ご指摘を踏まえ「当時の生活における住居と貯蔵穴の関係が」と修正します。
112下段 5行目	全国的にも→トル	ご指摘のとおり修正します。
116上段 7行目	関連する集落の可能性はある	ご指摘のとおり修正します。
116上段 17行目	同じ時期では→トル。段落変え、白子宿上遺跡、四ツ木遺跡でも同じ時期頃の住居跡が数軒検出されている。	ご指摘を踏まえ次のとおり修正します。 後ろから10行目の「である。」で改行し、以下後ろから4行目までを、「白子宿上遺跡、四ツ木遺跡でも同じ時期頃の住居跡が数軒検出されている。」と修正します。

117写真	午王山遺跡出土後期中葉下戸塚式土器←下戸塚式→トルor下戸塚式期とする *赤色丹彩の影響が下戸塚式の典型か判断できない。むしろ長野の雰囲気を感じる。他の要素や時期的には下戸塚式に近い。	原文のままとします。
120上段 5行目	遺構は確認されていない。	原文のままとします。
120上段 14行目	建郡後にかけての時期のものにみられる。	ご指摘を踏まえ「吹上遺跡第3次調査において確認された7件の住居跡が建郡前後のもの」とみられる。」と修正します。
120下段 末	「守」→ルビ不要 ルビをふるなら、すべての墨書土器にふること。	この字のみにルビをふった理由は、「かみ」と読むことにより、次ページに記載の「長官」という意味を持たせることができるので、ルビが必要となるものですので、原文のままとします。
121上段 1行目	「守」には、いわゆる長官の意味もある	ご指摘のとおり修正します。
121下段 13行目	いわゆる馬の背状	ご指摘のとおり修正します。
121下段 15行目	現に→トル	ご指摘のとおり修正します。
121下段 17行目	検出されていない。	ご指摘のとおり修正します。
121下段 19行目	ただし→トル	ご指摘のとおり修正します。
121下段 末	かもしれない。→とみるむきもある。	原文のままとします。
124上段 12行目	和光市中央第二谷中土地区画整理事業	ご指摘を踏まえ、「中央第二谷中土地区画整理事業」と修正します。
125下段 小見出し	東京外郭環状道路建設	原文のままとします。

125下段 20行目	新倉二丁目の外環道	ご指摘のとおり修正します。
126上段 17行目	谷中川左岸で北に面しているのが、妙蓮寺遺跡である。←谷中川が蛇行しているのも間違いとは言えないが、谷中川左岸に位置し遺跡の端部が谷中川に沿って北方に面しているのが、妙蓮寺遺跡である。	原文のままとします。
127上段 10行目	…古墳時代前期にかけての墓城であったことが分かった。	ご指摘のとおり修正します。
129上段 5行目	…銅釧、双角有孔土製品などの出土により…	原文のままとします。
130上段 4行目	菊川式の影響を受けた下戸塚式土器…	原文のままとします。
132上段 23行目	記載との詳細は明らかではなく…	ご指摘を踏まえ「新羅郡建郡に関する記載との関係を指摘する意見もあるが、詳細は明らかではなく、」と修正します。
総括	<p>何故、別編が加えられたのか？平成の歴史を考えるうえで、質量も予算も労力も、遺跡ないし埋蔵文化財に負う部分が多いのは確かだと思ふ。とは言え、和光市の歴史が大きく変貌したのは遺跡だけではない。平成の和光市は都市景観だけでなく、住民層や市民意識にも大きな変化のあった時代でもある。紙面数や編集方針に限界があることを考えれば、遺跡に特化した別編が付加されることは、他の分野や編集労力のどこかに無理や偏りが生まれかねないと、当委員として懸念を示しておきたい。</p> <p>一定分野に偏りがある傾向は監修者も示されており、紙面や編集方針、仕様に限界があることは、市史編さんの早い段階で実務側から提示されていたと当委員は記憶、理解している。こうした混乱の背景として、編さん委員の多様な発言を極力、汲み取って頂いた点は大変ありがたい。一方、こうした意見を市史の全体像との調整を図るのが、編集委員会や事務局の役割であろう。とりわけ、別編については市史の大局に影響するものであり、編さん委員会と編集委員会、事務局での丁寧な議論がなされないままに突如として、示された感が否めない。校正にまで関与させていただいている点は委員個人としては非常に感謝している。しかし、本来の校正や事実関係の確認は実務者の本務であり、編さん委員の意見とは異なる。新市史についてはほぼカタチが整いつつあるが、内容配分を含めた公正・中立を期待します。</p>	<p>令和4年1月18日に開催した第4回和光市史平成版編集委員会において、遺跡の内容・分量が多いので、遺跡に関する内容を「別編」にすることについて協議され、再校ゲラ段階で調整することとなりました。今回提示したものは、1月28日に通知いたしましたとおり市史編さん委員会委員長と編集委員長を含めた編集会議での協議を踏まえての結論を、和光市史編さん委員会の決定事項とした上で、具体化したものとなります。</p> <p>当該部分については、本文中に宮瀧委員長に各時代の人々の生活概況に関してご執筆いただいた文章を挿入し、それに合わせて委員ご指摘の趣旨を踏まえ、中世までを再編集することといたします。</p> <p>なお、再編成の方向としては、各時代の調査成果については「歴史をふりかえる」本文に戻して全体を調整し、別編は区画整理等により都市化が進む中で遺跡の発掘を行った結果、多数の遺跡が明らかになった成果などの概要をまとめる方向といたします。</p> <p>なお、ページ数等については他の施策等とのバランスを踏まえて対応いたします。</p>